

# “温泉”で発電！ 地域の再生に住民たちが 立ち上がりました。

元気アップつちゆ  
(福島県福島市)

地熱440kW+小水力140kW



加藤勝一さん

福島市西南の山あいにある土湯温泉町は豊富な温泉量を誇る人気の温泉郷で、ピーク時には年間60万人を超える観光客を迎え入れていました。しかし、東日本大震災と福島第一原発事故の風評被害のため観光客が激減。幾つもの宿泊施設が、廃業と長期休業に追い込まれました。そこで立ち上がったのが「元気アップつちゆ」。「土湯が持つ川の流れ、温泉による地熱を活用した、新しい地域づくりを決意したんです」と語る加藤勝一さんたちが採用したのが、「バイナリー発電」という中低温(50～200℃)の地熱に適した発電方式でした。140℃程度の温水と蒸気を利用して、温泉熱で沸点の低い媒体を蒸発気化。「その蒸気で発電するので、温泉効能の変化や減少枯渇の心配もないんです。温泉街の再生に向けてがんばります！」(加藤さん)。



土湯温泉の温泉街